

第18回

実務研究発表会



特別講演

15:45~16:45

演題：『外から見た薬剤師』

講師：神戸大学 名誉教授 平井 みどり 先生

日時：平成30年3月4日(日)

13:30~16:45

(※当初の予定より、終了時刻が延長になりました。)

会場：兵庫県民会館

9階 けんみんホール

神戸市中央区下山手通4-16-3



JR / 阪神「元町」より徒歩7分
地下鉄「県庁前」東1・2出入口/バス停「県民会館前」下車すぐ

発表会

※発表順ではありません。

発表演題が
確定しました!

13:30~15:45

『最近の臨床薬の構造を考える』 ニシイチ薬局 大石 義孝

要旨：生理活性発現を特徴とする新しい部分構造の有無を検討し、併せてそこからの展開を考える。

『病院薬剤師としてできる有効な手段とは』 倉敷北病院 岡本 邦子

要旨：糖尿病は生活習慣病。その合併症もRNPと、多岐にわたる。今回は Nephropathy →糖尿病性腎症→透析についてのケースレポートを紹介。透析の患者は薬もポリファーマシーゆえ、コンプライアンスも悪く、外来、入院を繰り返す事が多く、彼等のQOLも低下する。今回、入院時から、退院時まで服薬指導に関わり、その後、再度入院になる事もなく、コンプライアンスもよくなった患者さまのケースレポートを紹介する。

※この症例は去年“CKDのチーム医療研究会”にて発表しました。

『女子受刑者と薬剤の関係から見えてきた問題点』 (株)中川調剤薬局 中川 素子

要旨：2014年より法務省は、「女子刑務所」特有の問題を解消するため、「女子施設地域支援モデル事業」実施している。覚せい剤等の違法薬物のみならず、医療用医薬品への依存も強い実情を踏まえ、地域の薬剤師1名による女子施設地域支援モデル事業が2016年加古川女子刑務所(入所者数200人)に於いて開始となる。その支援方法とそこから見えてきた問題点を報告する。

『病棟での後発品勉強会について』 市立芦屋病院 橋本 百世

要旨：当院における後発医薬品の数量シェアは1年間で68.7%から92.8%に大幅に増加した。一方で、臨床現場では混乱の声が聞かれ、より安全に後発品を導入していく必要があった。そこで今回、病棟薬剤業務の一環として、毎月1回、後発品の勉強会を行い、6回終了後に看護師25名にアンケート調査をおこなったので、その評価を報告する。

『トリアージと医師との連携による医療の生産性と付加価値向上』 (株)中川調剤薬局 松尾 杏奈

要旨：地域住民からの相談に対して、薬剤師として責任を持ち、必要に応じて他職種に繋いでいくことは、医療費を抑制しつつ質の高い医療を提供することに繋がる。つまりは、医療の生産性と付加価値を向上させる上で極めて重要である。今回、患者からの相談に対して薬学的判断および対応を行ったことで、適正な薬物療法が継続できた症例について報告する。

※この症例報告は近畿薬剤師合同学術大会2018ポスター発表と同様のものです。

『小児病院におけるAST活動について』 兵庫県立こども病院 廣瀬 晃子

要旨：兵庫県立こども病院では2016年度よりAST（抗菌薬適正使用チーム）を結成し活動を行っている。今回、その取り組みについて紹介する。

『受動喫煙防止と禁煙支援に向けた取り組み』 神戸学院大学 薬学部 森本 泰子

要旨：大学生への喫煙に関する意識調査（2014年～2016年）の結果について報告し、今後の展望を述べる。

『実務実習生に対するEBM教育の試み』 兵庫医科大学ささやま医療センター 上田 昌宏

要旨：改訂薬学教育モデルコアカリキュラムでは、医薬品情報の収集・評価のさらなる実践が求められており、EBMを実践できる薬剤師の養成について方向性が明確に示されている。しかしながら、実際の臨床現場において実務実習生に対しEBM教育を行っている施設は少ない。そこで、実習生がEBMを実践し、問題解決能力を養成できるよう教育プログラムを策定・実施したので、その実践例を報告する。

兵庫県薬剤師会事務局 行き **FAX 078-341-7113** へ切り取らずに送信願います
 (定員になり次第、申込を締め切らせていただきます。)

参加者名	兵庫県薬 会員番号	氏名
支部	勤務先	TEL
		FAX(受講票送信先)

※定員に余裕のある場合は実習生も受講可能です。御希望の場合は、事務局へお問い合わせください。

- 【JPALS 研修会コード】 28-2017-0233-100
- 【受講シール】 日本薬剤師研修センター 2単位、日病薬病院薬学認定薬剤師制度 2単位 申請中
- 【問い合わせ】 兵庫県薬剤師会 事務局 TEL 078-341-7585
- 【受講票】 講習会1週間前を目安に、受講票をファックスで送信いたします。

共催：(一社)兵庫県薬剤師会、(一社)兵庫県病院薬剤師会